

# クロザリル（クロザピン）治療について

## クロザリルによる治療抵抗性統合失調症の治療

### 『最後の切り札』クロザピン

統合失調症に対しては、近年多くの有効な薬がわが国にも導入され、その病状を改善できるようになりました。しかし、さまざまな薬をきちんと服用していても、精神的な症状などが良くならないことがあり、これを「反応性不良」といいます。また副作用が生じやすいために、必要な量の薬を投与できず、そのために病状が良くならないこともあり、これを「耐容性不良」といいます。そしてこの「反応性不良」と「耐容性不良」をまとめて「治療抵抗性」といいます。クロザピン（商品名：クロザリル）は、このような「治療抵抗性」の状態にある方にも有効な場合があることが証明された唯一の薬です。日本で行われた臨床試験では、治療抵抗性とされる方のうち約57～67%で精神症状の改善が認められました。

日本では2009年から使われていますが、決められた基準を満たした病院・医師でないと処方できないようになってきました。現在、栃木県では当院を含め10施設で導入されています。栃木県南部、群馬県南東部の両毛地域にお住いの患者さんで、クロザピンを使ってみたいと考えている方は、一度ご相談ください。

### クロザピンについて

クロザピンは、現在世界97カ国の国で使用されており、他の抗精神病薬で十分な治療効果が得られない『難治性統合失調症』に対して、もっとも高い評価を受けている薬です。

他の薬で治療していても、次のような症状などがみられる場合はクロザリルの投与を検討します。

- ・陽性症状（幻覚、妄想、興奮など）が改善しない場合
- ・陰性症状（無気力、無関心など）が改善しない場合
- ・その他、精神的な病気に伴う症状・行動（多量に水を飲んだり、自分を傷つけたり、暴力をふるうなど）が問題となっている場合
- ・錐体外路症状（手足のこわばり、ふるえ、じっと座ってられないなど）のため、精神症状の改善に必要な量の薬が服用できない場合
- ・再発や再入院が繰り返される場合
- ・これまでの薬による治療の継続が難しい場合



## 副作用について

クロザピンは、『無顆粒球症』という重い副作用が起きる可能性があるため、これまで日本では使用が許可されていませんでした。顆粒球というのは、血液中にある細胞のひとつで、身体を細菌の攻撃から守る働きをしています。そのため、顆粒球の数が減ってしまうと、感染症にかかりやすくなってしまいます。

「そんな怖い薬は使いたくない」と思う方が多いかもしれませんが、ですが、そういった重い副作用があるにもかかわらず、**この薬が今日世界中で数多く使用され、日本でも慎重な試験使用の期間を経て、ついに使用できるようになったのは、やはりこの薬が今までの治療では良くならなかった統合失調症にも非常に高い効果を持ち、それによって多くの患者さんの生活に希望をもたらしてきた**という事実があるからです。

クロザリルによる治療を受ける方は、無顆粒球症の早期発見などを目的とした定期的な血液検査が義務付けられています。また、無顆粒球症の他にも重大な副作用として「高血糖」があり、こちらについても定期的な血液検査が義務付けられています。

その他、クロザリルの服用により起こりやすい副作用として「よだれが多く出る」「便秘」「眠け」「発熱」「悪心」などがあります。

## クロザリル患者モニタリングサービス（CPMS）について

クロザリルを使用するにあたって、病院・医療関係者・患者さんは、あらかじめCPMSというシステムに登録を行うことが義務付けられています。これは、それぞれの患者さんに対して、適切な頻度で検査が行われ、安全に使用されているかを絶えず確認するためのものです。仮に無顆粒球症を起こした場合にも、早期発見ができ、適切な治療を行うことで回復につなげることができるのです。

## 受診希望の方へ

クロザピンを使ってみたい、詳しい説明を受けたい、とお考えの方は、まずは現在かかっている主治医の先生とご相談なさって、紹介状をもらって来ていただくようお願いします。初回受診時はご家族のみでも可能です。お電話にてご予約ください。

### お問い合わせ先

佐野厚生総合病院 TEL：0283-22-5222 医療福祉支援室 精神科担当まで

## 医療関係者の方へ

紹介をお考えになる患者様がいらっしゃいましたら、[地域医療連携室](#)までお問い合わせください。

### お問い合わせ先

佐野厚生総合病院 TEL：0283-22-5222 地域医療連携室 まで

# クロザリルによる治療を受けるためには

## 1.クロザリルを処方できる医療機関を受診する

クロザリルは、すべての医療機関が処方できる薬ではありません。重大な副作用である無顆粒球症や高血糖が起きたときに早急に対応できると認められた医療機関だけが取り扱うことができることになっています。さらに講習を受け審査を通過した医師のみが処方できる薬です。

## 2.クロザリルの治療についての説明を受け、同意文書に署名をする

クロザリルの治療を開始する前に、主治医から治療について詳細な説明を受けます。その説明を聞いたうえで、治療を受けるかどうかを考え、治療を受ける場合には同意文書に署名をすることになります。

## 3.入院をする

治療開始は必ず入院してからです。原則として服用開始後 18 週間は入院が必要となります。これは、この間に無顆粒球症が発症しやすいためといわれているからです。ただし、【18 週未満で退院する条件】を満たせば服用開始 4 週目以降であれば退院して通院治療に移ることが可能となっています。

## 4.定期的な血液検査を受ける

クロザリルは「無顆粒球症」や「高血糖」などの重大な副作用の早期発見・早期処置のため、定期的な血液検査が義務づけられています。無顆粒球症の把握として、白血球数と好中球数を、高血糖の把握として空腹時血糖値と H b A 1 c を測定していきます。

血液検査は服用開始から 26 週間は、週 1 回のペースで行います。(26 週以降になれば 2 週に 1 回に移行することも可能) ただし、白血球数や好中球数が基準値より低下した場合には週 2 回のペースになり、さらに低下し中止基準に達すればクロザリルの服用を中止し、白血球数や好中球数がある基準に回復するまで毎日検査を実施することになります。

なお、白血球数や好中球数が中止基準に達してクロザリルを中止した場合には、回復後であってもクロザリルの再投与が今後できないこともございます。